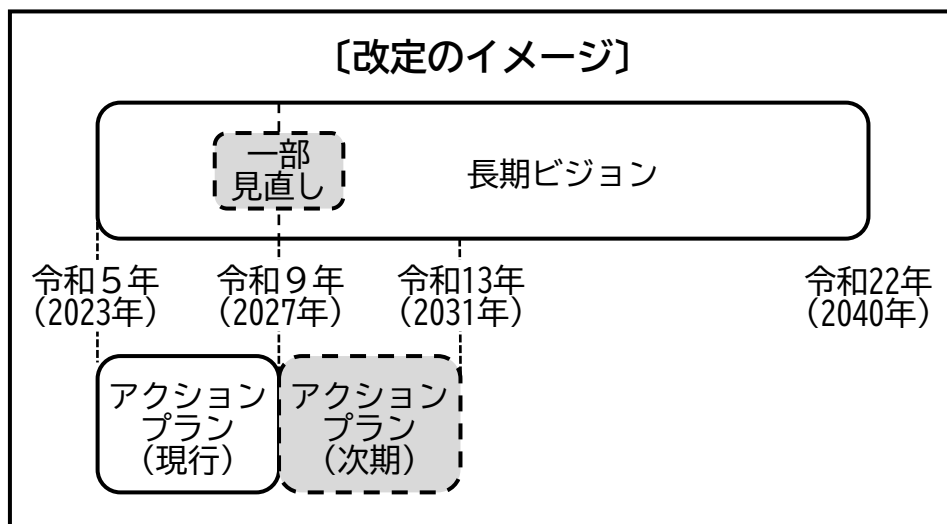


1 総合計画改定の趣旨

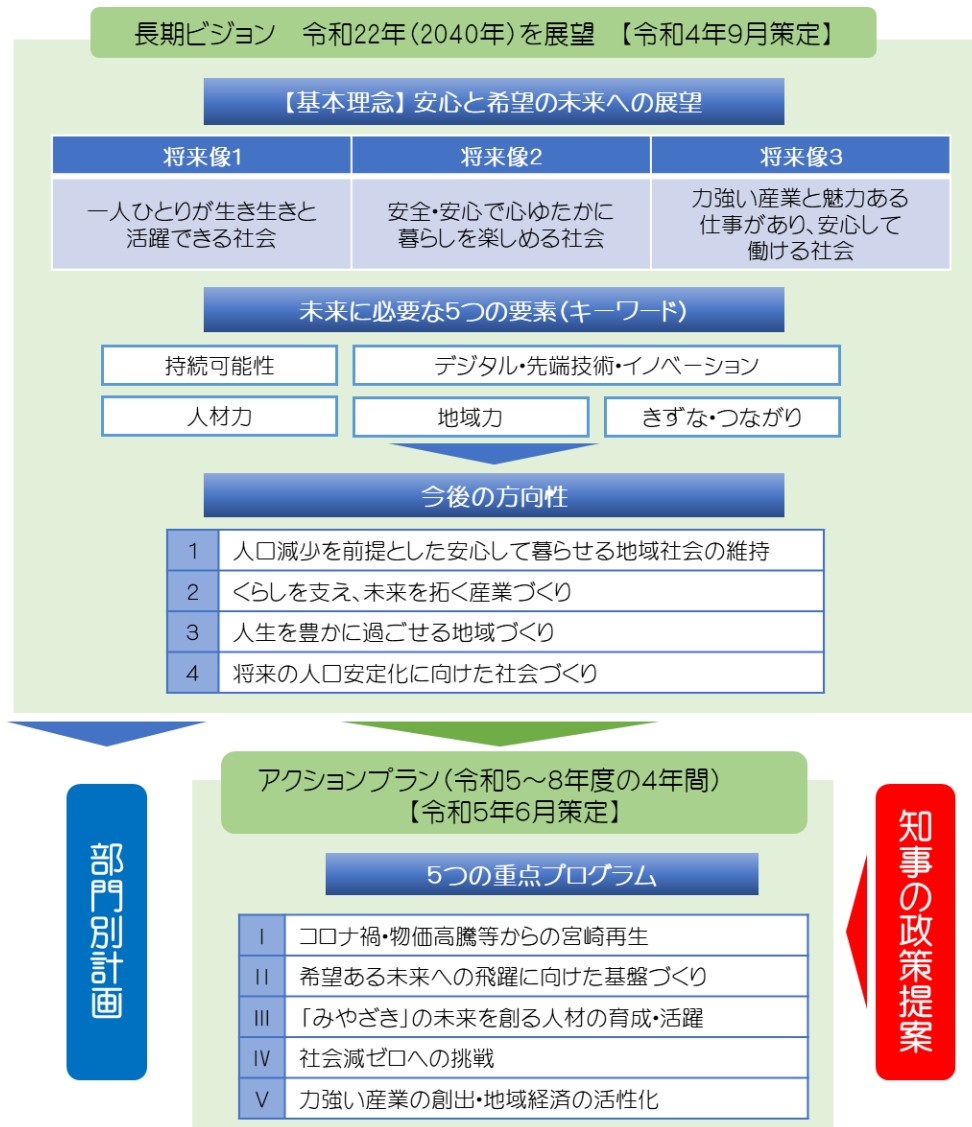
現行の県総合計画「宮崎県総合計画2023」は、令和22年（2040年）の将来を展望した「長期ビジョン」と、4年間の実行計画となる「アクションプラン」で構成される。

このうち、「アクションプラン」は、今年度で計画期間が終了するため、新たに策定する必要がある。

このため、まずは「長期ビジョン」について、社会情勢の変化を踏まえた所要の見直しを行った上で、新たな「アクションプラン」を策定する。



〔「宮崎県総合計画2023」の概念図〕



宮崎県総合計画の概要(2)

2 改定手続き

- (1) 総合計画審議会での審議
審議会委員及び専門委員（「人」、「暮らし」、「産業」）による調査・審議、アクションプランの政策評価
- (2) 基礎調査等の実施
人口構造・県民所得等の将来推計、県民アンケート、パブリックコメント
- (3) 地域別市町村会議の実施
- (4) 若者・女性との意見交換等の実施

3 主なスケジュール（予定を含む）

- | | |
|--------|---------------------------------------|
| 令和7年6月 | 常任委員会（計画改定着手） |
| 7月 | 第1回総合計画審議会（諮問） |
| 8月 | 第2回総合計画審議会（部会設置）、若手職員ワークショップ |
| 10月 | 地域別市町村会議（～12月） |
| 11月 | 県民アンケート、若者・女性との意見交換 |
| 12月 | 第3回総合計画審議会、第1回専門部会（論点整理） |
| 令和8年3月 | 常任委員会（「長期ビジョン」素案審議） |
| 同月 | 第4回総合計画審議会、第2回専門部会合同会議（「長期ビジョン」素案審議） |
| 4月 | パブリックコメント（～5月） |
| 同月 | 常任委員会（「長期ビジョン」見直し経過報告） |
| 5月 | 第5回総合計画審議会、第3回専門部会合同会議（「長期ビジョン」答申案審議） |
| 同月 | 「長期ビジョン」に係る答申 |
| 6月 | 議会議案提出（「長期ビジョン」） |
| | ～以降、「アクションプラン」の策定手続き～ |

趣旨

- 令和4年9月に策定した現行の「長期ビジョン」では、人口減少・超高齢化の進行など、時代の潮流と本県の実況を踏まえながら、本県が目指す令和22年(2040年)の将来像と今後の方向性を示している。
- 策定から数年が経過し、新型コロナの収束をはじめ、人口減少・少子高齢化の加速や国際情勢の緊迫化など、本県を取り巻く環境が大きく変化しているため、所要の見直しを行うもの。

【現行】

時代の潮流と宮崎県

1	人口減少・超高齢化の進行	2	気候変動・自然の脅威
3	価値観や行動の変化	4	デジタル化・先端技術の進展
5	世界の中の日本・宮崎		

【基本理念】安心と希望の未来への展望

将来像1 (人)	将来像2 (暮らし)	将来像3 (産業)
一人ひとりが生き生きと活躍できる社会	安全・安心で心ゆたかに暮らしを楽しめる社会	力強い産業と魅力ある仕事があり、安心して働ける社会

今後の方向性

1	人口減少を前提とした安心して暮らせる地域社会の維持
2	暮らしを支え、未来を拓く産業づくり
3	人生を豊かに過ごせる地域づくり
4	将来の人口安定化に向けた社会づくり

【見直し案】

時代の潮流と宮崎県

1	人口減少・ 少子高齢化の加速	2	世界の中の日本・宮崎
3	経済・産業を取り巻く環境の変化	4	気候変動・自然の脅威
5	価値観や行動の 変容	6	デジタル化・先端技術の進展

【基本理念】安心と希望の未来への展望 ～共に生き、共に創り、共に栄える宮崎へ～

将来像1 (人)	将来像2 (暮らし)	将来像3 (産業)
一人ひとりが生き生きと活躍できる「 共生 」の社会	安全・安心で心ゆたかな暮らしを楽しめる「 共創 」の社会	産業が持続的に成長し、安心して働ける「共栄」 の社会

今後の方向性

(1) 寛容で多様性ある社会づくり	(1) 地域社会の維持・充実	(1) 「稼ぐ」農林水産業の実現
(2) 若者・女性から選ばれる県づくり	(2) 安全・安心で持続可能な暮らしづくり	(2) 「稼ぐ」成長産業の創出・育成
(3) 生み育てやすい環境の整備・充実	(3) 心ゆたかに過ごせるまちづくり	(3) DX推進とイノベーション創出
(4) こどもの可能性を伸ばせる教育	(4) 安心して住み続けられる中山間地域	(4) 魅力ある雇用・職場づくり
(5) 心身共に健やかに活躍できる社会の実現		(5) 産業人材の確保・育成・定着

第1章 時代の潮流と宮崎県(1)

潮流1 人口減少・少子高齢化の加速

見直しの
視点

■ 人口減少を正面から受け止めた上での「緩和策」と「適応策」の一体的推進

【宮崎県の状況】

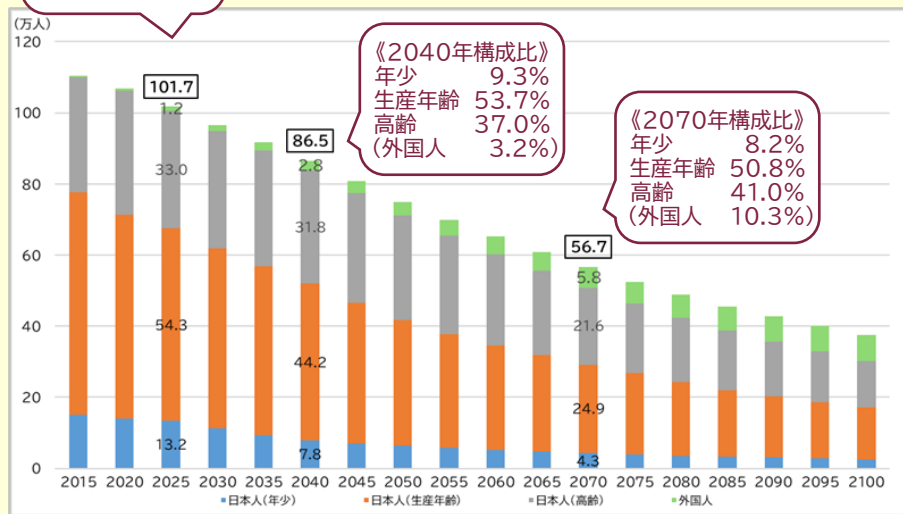
- 人口は平成7年の約117.6万人をピークに減少が続き、近年は年間1万人規模の減少（令和9年には100万人を割り込む見込み）
- 出生減と高齢化による死亡増に伴う自然減の拡大
- 若者・女性の県外流出

【将来に向けた課題】

- 少子化対策や若者・女性に選ばれる地域づくり〔人口減少の緩和〕
- 暮らしに必要なサービスの維持・充実や産業の活性化〔人口減少への適応〕

《2025年構成比》
年少 13.1%
生産年齢 54.5%
高齢 32.4%
(外国人 1.2%)

〈宮崎県の長期的な人口推計（暫定）〉



《2040年構成比》
年少 9.3%
生産年齢 53.7%
高齢 37.0%
(外国人 3.2%)

《2070年構成比》
年少 8.2%
生産年齢 50.8%
高齢 41.0%
(外国人 10.3%)

潮流2 世界の中の日本・宮崎

見直しの
視点

■ 今後も増加が見込まれる外国人への対応
■ 成長を続ける世界の活力の取り込み

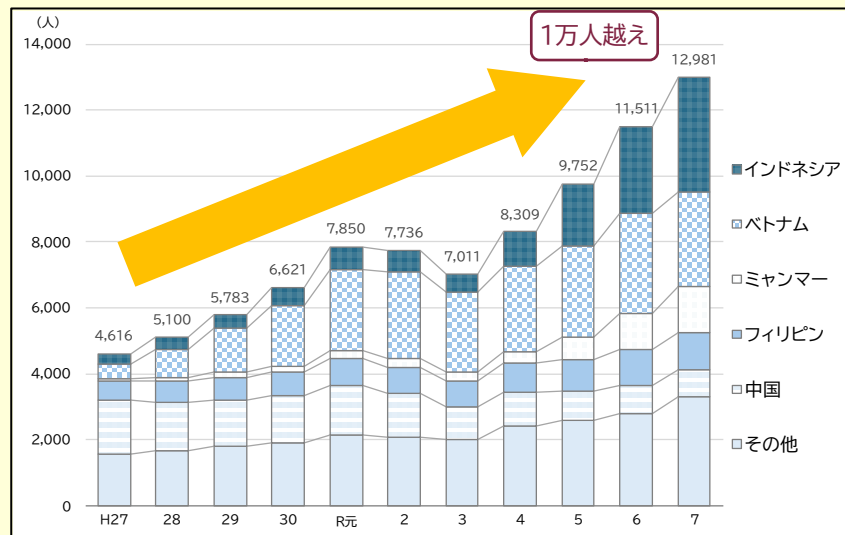
【宮崎県の状況】

- 在留外国人の大幅な増加
- 世界に誇る全国有数の食料供給基地
- 神楽、ユネスコエコパーク、世界農業遺産など世界に通用する魅力・強み

【将来に向けた課題】

- 外国人材の受入・定着への支援と多文化共生の地域づくり
- 世界・アジア市場との更なる交流拡大、グローバルな視点を持ったこどもたちの育成

〈宮崎県における国籍別外国人数の推移〉



第1章 時代の潮流と宮崎県(2)

潮流3 経済・産業を取り巻く環境の変化

新たに追加

時代の潮流

- 長引く物価高騰、国全体では高水準の賃上げが実現
- 人手不足・後継者不在といった課題の深刻化や、「金利のある世界」、円安の長期化などの環境変化

【宮崎県の状況】

- 物価水準は上昇傾向、全国比較では低位
- 本県企業の大部分は中小企業
- 中小企業に勤める従業員数の割合は全国平均を大きく上回る
- 過去最大の最低賃金引上げも、賃金水準は全国で低位

【将来に向けた課題】

- 次なる成長のエンジンとなる「稼ぐ」産業の創出・育成
- 円滑な事業承継等による企業規模の拡大、経営基盤の強化
- 地域経済循環の強化、物価高騰等に対する適切な支援

〈宮崎県の規模別企業数・従業員数（2021年）〉

大企業			中小企業			中小企業うち小規模企業		
項目	数	構成比 (%)	項目	数	構成比 (%)	項目	数	構成比 (%)
企業数	39	0.1	企業数	31,861	99.9	企業数	27,508	86.2
(全国)	(10,364)	(0.3)	(全国)	(3,364,891)	(99.7)	(全国)	(2,853,356)	(84.5)
従業員数	15,502	6.0	従業員数	242,586	94.0	従業員数	89,683	34.7
(全国)	(14,384,830)	(30.3)	(全国)	(33,098,442)	(69.7)	(全国)	(9,725,922)	(20.5)

全国4位

潮流4 気候変動・自然の脅威

見直しの視点

- 激甚化・頻発化する自然災害や家畜伝染病への対応
- 環境への配慮と経済成長が両立した脱炭素社会の実現

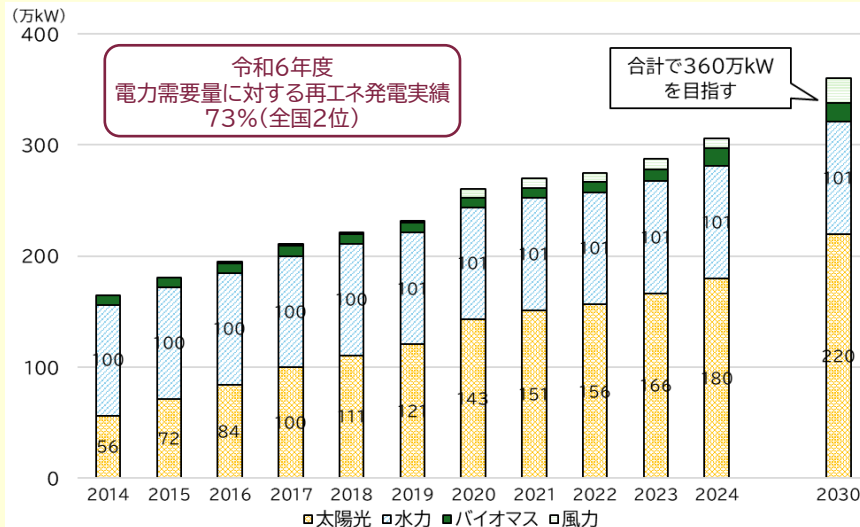
【宮崎県の状況】

- 風水害や地震等の自然災害の影響を受けやすい地理的条件
- 太陽光やバイオマス発電など、再生可能エネルギーの導入拡大

【将来に向けた課題】

- 社会インフラの強靱化と公共施設等の老朽化対策
- 家畜伝染病への防疫強化
- 本県の強みを生かしたゼロカーボン社会づくり

〈宮崎県における再生可能エネルギーの発電導入量〉



第1章 時代の潮流と宮崎県(3)

潮流5 価値観や行動の変容

見直しの
視点

- ますます多様化する個性や価値観への対応
- 若者・女性、移住者の定着や関係人口の創出

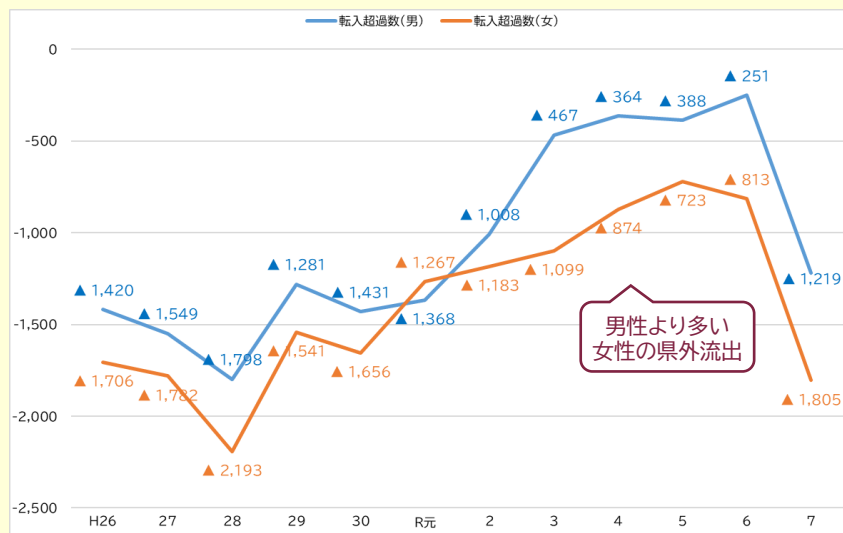
【宮崎県の状況】

- 東京一極集中への回帰に伴う若者・女性の県外流出の拡大
- 移住相談や移住件数の増加

【将来に向けた課題】

- テレワークなど希望するライフスタイルが叶う多様な働き方の実現
- 固定的な性別役割分担意識などアンコンシャス・バイアスの解消
- スポーツや娯楽など、こども・若者がワクワクし、楽しめる機会の創出

〈宮崎県の男女別における県外流出の推移〉



潮流6 デジタル化・先端技術の進展

見直しの
視点

- 生成AIなどの先端技術の急速な進展
- 国による半導体政策の強化

【宮崎県の状況】

- スマート農業、自動運転、遠隔診療等の先端技術を活用した取組に着手
- IT技術者等の人的資本の乏しさ、中小企業におけるデジタル化の遅れ
- 九州全体で「新生・シリコンアイランド」の動きが加速

【将来に向けた課題】

- 人口減少に伴う諸課題の解決に向けた先端技術の積極的な活用
- IT人材の確保・育成や半導体関連産業などの成長産業の振興

〈ピーマン自動収穫ロボット〉



〈手術支援ロボット〉



第2章 目指す将来像 ～2040年の宮崎県の姿～(1)

将来像1
「人」

一人ひとりが生き生きと活躍できる「共生」の社会

目指す将来像

- **働きやすさ**やこどもの生み育てやすさなど、理想のライフスタイルを実現できる環境を整えることで、**宮崎を「選ぶ」**方が増え、個々の背景や価値観を尊重しつつ、互いに共感し合える**寛容で多様性に富んだ共生社会**を構築
- 宮崎に誇りと愛着を持ちながら、確かな学力や社会性を身に付けることにより、これからの社会を生き抜く力を持ったこどもたちを**地域とともに**育成
- **アンコンシャス・バイアスを解消**し、国籍や性別、年齢、障がいの有無などにかかわらず、一人ひとりが**ゆとりを持ち**ながら、生き生きと活躍できる社会を実現

主な今後の方向性

(1) 寛容で多様性ある 社会づくり

- 安心して暮らし、学び、働ける環境の整備やアンコンシャス・バイアスの解消
- 活気ある多文化共生の地域づくり
- 人権が尊重され一人ひとりが輝ける社会づくり



(2) 若者・女性から 選ばれる県づくり

- 柔軟で多様な働き方ができる職場環境づくり
- 移住・U I Jターンの促進
- 若者・女性のチャレンジ支援
- 魅力的なまちづくり



(3) 生み育てやすい 環境の整備・充実

- 出会いから結婚までの相談体制や安心して妊娠・出産できる医療体制の維持・充実
- 多様な働き方の推進や家事・育児をシェアする考え方の啓発
- 企業による子育て支援の促進



(4) こどもの可能性を 伸ばせる教育

- 成長の各段階に応じたサポート体制の整備
- 個に応じた教育の推進
- 学校・家庭・地域が一体となった郷土愛を育む教育の推進



(5) 心身共に健やかに 活躍できる社会の実現

- 健康づくり支援、健康経営の推進
- 生活困窮や孤独・孤立等への支援
- 高齢者が活躍できる社会づくり



第2章 目指す将来像 ～2040年の宮崎県の姿～(2)

将来像2
「暮らし」

安全・安心で心ゆたかな暮らしを楽しめる「共創」の社会

目指す将来像

- 医療・福祉、交通・物流、買い物等の日常生活に不可欠な機能やサービスを相互に補完・連携し合える仕組みを構築し、縮小する人口規模に適応した持続可能な社会を確立
- 激甚化・頻発化する自然災害等に柔軟に対応できる強靱な県土づくりを推進
- 文化やスポーツ環境などの地域資源を生かした賑わいのある地域を共創し、経済的な豊かさだけでは得られない幸せを実感しながら、安全・安心で心ゆたかな暮らしを楽しめる社会を実現

主な今後の方向性

(1) 地域社会の 維持・充実

- 先端技術活用等による生活に必要な機能・サービスの維持
- 持続可能な交通システムの構築
- 広域連携による公共施設等の複合化



(2) 安全・安心で持続 可能な暮らしづくり

- 県土強靱化、防災拠点の機能強化、地域の防災力向上
- 地域を支える医療体制の構築、介護テクノロジー等の先端技術導入
- クリーンエネルギーを基盤とした環境にやさしい暮らしの定着



(3) 心ゆたかに過ごせる まちづくり

- 世界基準の施設を活用した若者・女性がワクワクする機会の創出
- 神楽など宮崎ならではの文化資源を生かした交流の推進
- 地域の食や音楽などを楽しめる賑わいの創出



(4) 安心して住み続け られる中山間地域

- 暮らしを守る・支える「ひなた生活圏」づくりの推進
- 中山間地域の産業を支える担い手確保や地域づくりを担う人材育成
- 関係人口の創出・拡大



第2章 目指す将来像 ～2040年の宮崎県の姿～(3)

将来像3
「産業」

産業が持続的に成長し、安心して働ける「共栄」の社会

目指す将来像

- 農林水産業やフードビジネス、半導体、エネルギー関連など、地域経済のけん引役となる「稼ぐ」産業の育成・集積により、**企業と地域が共栄する社会**を構築
- 円滑な事業承継等による企業規模の拡大や経営基盤の強化に加え、デジタル化による生産性向上や産学官が連携した産業人材育成、多様な人材の活用により、**人口減少下においても持続的成長が可能な地域産業へ構造転換**
- 食、自然、**伝統文化、スポーツ**など、本県の強みや魅力を生かし、国内外との交流を**更に拡大**

主な今後の方向性

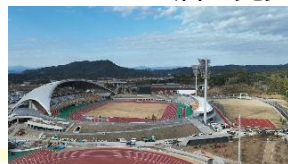
(1) 「稼ぐ」 農林水産業の実現

- 農地集約等の生産効率向上、新品種や技術の開発・普及
- 海外需要を取り込んだフードビジネスの更なる強化
- 再造林推進など循環型農林水産業の推進



(2) 「稼ぐ」成長産業の 創出・育成

- 半導体関連産業の集積やクリーンエネルギーを活用した競争力強化・新産業創出
- スポーツの成長産業化や観光の更なる振興
- 地域の中核企業の創出
- 陸海空の交通・物流ネットワークの一層の充実



(3) DX推進と イノベーション創出

- あらゆる産業におけるDX推進
- 産学官で連携した新ビジネスやイノベーション創出
- スタートアップ企業等が果敢にチャレンジできる環境整備



(4) 魅力ある 雇用・職場づくり

- 多様な人材が個々の能力・技術を発揮できる働き方の促進
- 立地環境の整備、本社機能等の誘致



宮崎県企業立地ガイド

(5) 産業人材の 確保・育成・定着

- デジタル化・DXを推進する人材育成・確保
- 女性・高齢者・障がい者・外国人など、多様な人材の活躍推進

